

事とへ先頃山口左馬助戸部新左卫門を討くよも。いかふもゆくと
其失を贖果せ。拔群の才と。う川義元の疑心ととて。駿府の
首尾を繕はんと心懶る時節されば。君勢征と听りのうべ。忽
駿府へ内通しと。変どりをと業の内み。其のうべ防禦
を立んぐ。迷ひて謀叛の色見ゆる。岩倉山の城を下る。津田
伊勢守信昌岩倉の尾州丹羽郡より清洲の東北三里があり津田信昌の臣家の臣家
傍。鳴海笠ると一致しと。御歎とす。此傍の兵輩他御を
窺ひ。二方三方より发起ば実ふ諱御大事。如也伊勢
攻を止めて却ひ。よう岩倉の御退治こそ。然うべくはれ。とりへ
速。よ上総助実理の諫み。然へあれども既今日勢州攻の
評定まつり。明日出陣と徇されば。諸士悉く準備しと。今量へ

ちや那遠と一番螺と筋くわゆん。然ある晌とハ佻とく出陣
の事を止めざ。大ねの命令へ一遭遠と後日ま。お用がる
愁ゑもあるん。這義といぐなをべた。と听く秀吉笑て言す。
られまひの方僅くり。遠と出馬す。くへ。佐屋川をく出
如ひ。彼処ふ御馬をとてまき。若軍勢と荷合を。容子を
見せく勢揃そろ。引返して岩倉へ。嚮せあふりのうべ。彼城中
の輩ひ。只伊勢攻とのをかねて。由所もる縛必然まわらわ。その
不意をりて殿せあひ。勝利を得ること最易やす。岩倉落
城つまつま。丹羽の郡こ悉く。御手小属おりもべ。丹羽の
郡こ鳴海の彼方そ。歎ふ屬おる城まも。破竹の如く。豫算せん
謀めう。密々ひそかにとりつくよしとをされば。老臣達へ遠のことを。